

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛騨特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月18日(火) 9:30~11:30
- 3 開催場所 飛騨特別支援学校 プレイルーム
- 4 参加者

会長	白田 美樹	高山日赤分校PTA代表
副会長	河野 知子	本校PTA会長
委員	塩谷 雅	花里まちづくり協議会会長
	桑原 宏之	新宮まちづくり協議会会計
	坂下美千代	山ゆり学園園長
	窪田 哲	高山市社会福祉協議会会長(欠席)
	石原 隆博	高山市福祉部福祉課課長
	柏木 真司	ウエルコミュニティ飛騨理事長
	大坪希美枝	環境ネット(株)サービス管理責任者
	嶋田喜美子	高山市民防災研究会 防災士(欠席)
	学校側	竹田万里子
	渡辺 敏昭	事務部長
	清水 栄枝	高山日赤分校副校長兼高等部主事
	太田 浩司	本校教頭
	道下亜紀子	本校小学部主事
	長瀬美智代	本校中学部主事
	奥田 和代	本校高等部主事
	松橋 美雪	高山日赤分校小中学部主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業見学

(2) 今年度の取組について

意見1: 木工製品を常時販売しているようだが、「家具のフェスティバル」のイベントの場でも紹介し、周知を広めるのはどうか。

意見2: 地域でイベントがあるときには学校に事前に連絡をし、地域に学校周知ができるように協力していきたい。

意見3: 緊急時の避難については人的支援が必要である。町内会長や県議会議員の協力を得ながら、人を集めるための対策を具体的に考えていきたい。

意見4: 地震や火災でなく、Jアラートについても取り組めるとよい。

(3) 学校評価アンケート結果について

- 意見1：保護者への連絡や懇談が十分に行われているかといった質問などについては、学校運営協議会委員の立場では、実際がみえないため「わからない」と回答した。「わからない」がよくないわけではなく、結果としてとらえればよい。
- 意見2：「わからない」の回答には、「どちらともいえない」と「判断できない」の2通りの「わからない」があり、多くなっているのではないかと。
- 意見3：生徒のアンケートは、回答方法の間違いをなくすためにも、質問は簡単な言葉、短い文にする等、わかりやすくし、回答も「あてはまる・あてはまらない」ではなく、具体的な内容にしてはどうか。今後もアンケート内容や回答方法を見直し、長いスパンでよりよいものにしていけるとよい。
- 意見4：進路指導において、関係機関と連携ができていないかわからないという意見がある。実際にはできているのに、保護者や生徒に伝わっていない。例えば、現場実習後の報告書の内容について、学校から生徒や保護者に伝えているが、その場に事業所も同席して、学校、保護者、生徒、事業所で懇談をもってはどうか。また、実習中に保護者が見学するケースもあるため、その場で、学校、保護者、事業所で懇談の場を設けることが連携になるのではないかと。
- 意見5：働き方改革については、教員のメンタルヘルスも大事である。担任が一人で抱え込んでしまうことのないよう、チームで対応するとよい。
- 意見6：腰痛等がある教員もいると思うが、職業病で片付けられないよう、補助具や保護具を活用することも考えるとよい。
- 意見7：退勤時刻を早めることで、仕事の持ち帰りになってはいないか。業務のスリム化や業務アシスタントの活用等の取組が充実するとよい。
- 意見8：働き方改革に関する取組は、どうやって保護者に周知できるかが課題である。
- 意見9：保護者アンケートの中で、学校や教員の様子がわからないというのは、コロナ禍で保護者が校内に入れないことが理由にある。学校に入る機会が増えると、また評価も変わってくるのではないかと。

(4) 特別支援学校設置基準について

- ・校長より現状を説明した。

(5) 作業製品価格審査

- ・高等部作業学習の製品価格について、適正な価格であるとの承認が得られた。

6 会議のまとめ

- ・学校や児童生徒の様子を実際に参観することで、学校への理解を図ることができた。
- ・得られた意見を学校内で共有し、実践につなげていく。第3回の運営協議会では、今年度の実践のまとめを報告し、さらに来年度の取組について検討する。